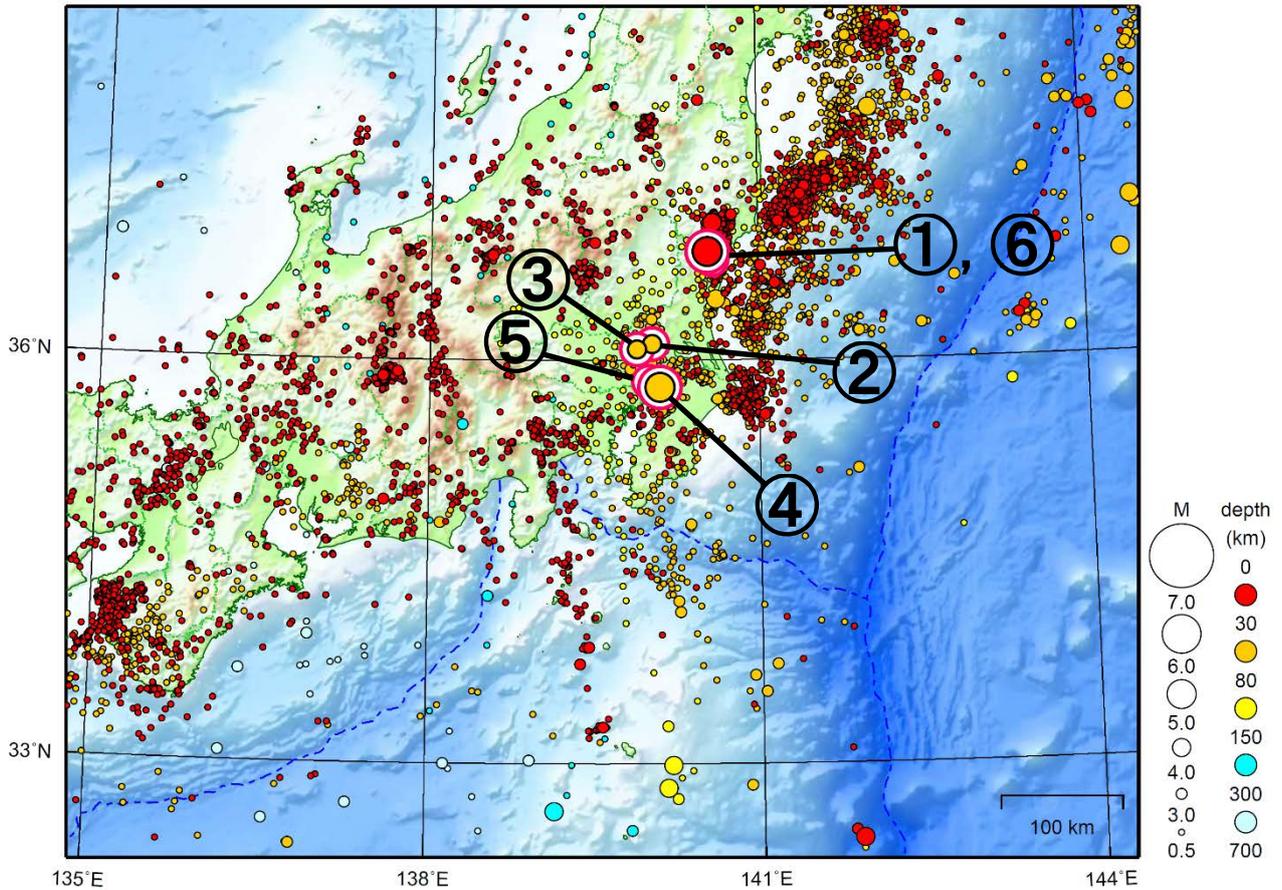


関東・中部地方

2017/08/01 00:00 ~ 2017/08/31 24:00

N=9249



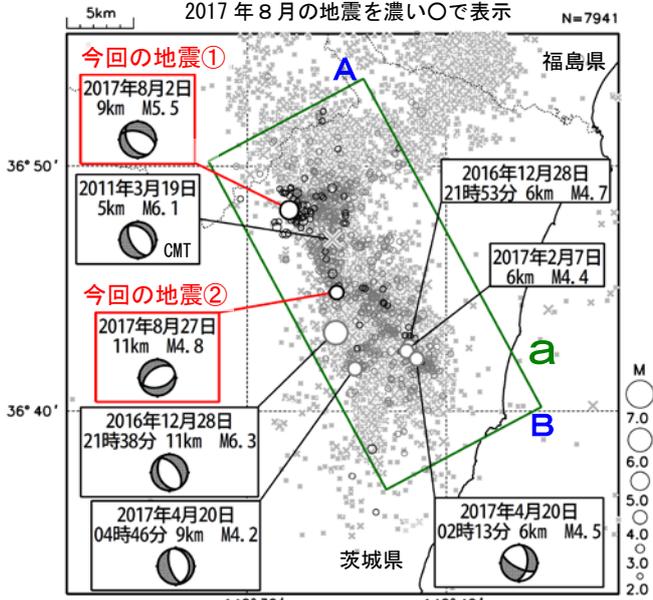
地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 8月2日に茨城県北部でM5.5の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 8月2日に茨城県南部でM4.6の地震（最大震度4）が発生した。
- ③ 8月3日に茨城県南部でM4.6の地震（最大震度3）が発生した。
- ④ 8月10日に千葉県北西部でM5.0の地震（最大震度3）が発生した。
- ⑤ 8月14日に千葉県北西部でM4.5の地震（最大震度3）が発生した。
- ⑥ 8月27日に茨城県北部でM4.8の地震（最大震度3）が発生した。

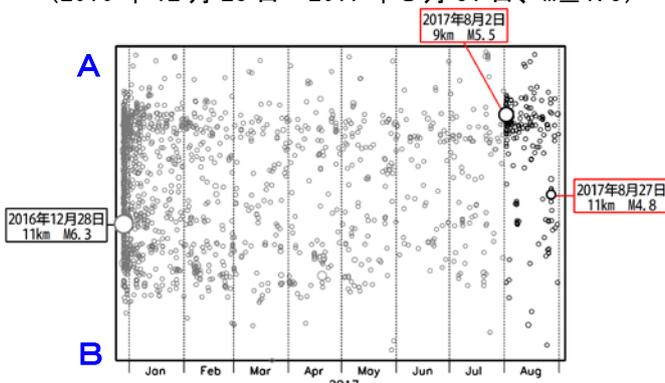
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

8月2日、8月27日 茨城県北部の地震

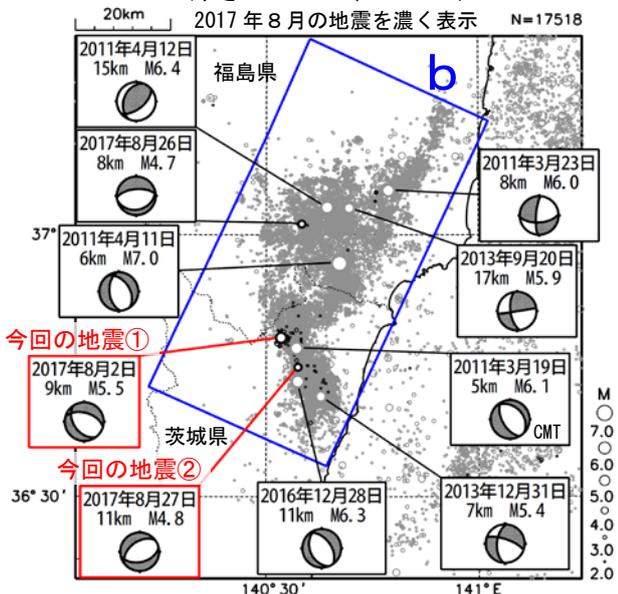
震央分布図
 (2011年1月1日～2017年8月31日、
 深さ0～20km、 $M \geq 2.0$)
 2016年12月27日までの地震を薄い×で表示
 2016年12月28日から2017年7月31日の地震を薄い○で表示
 2017年8月の地震を濃い○で表示



領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)
 (2016年12月28日～2017年8月31日、 $M \geq 1.5$)



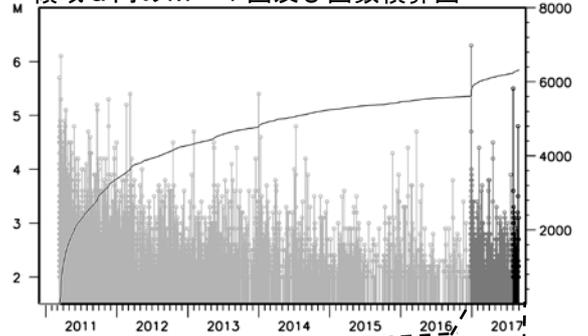
震央分布図
 (1997年10月1日～2017年8月31日、
 深さ0～30km、 $M \geq 2.0$)



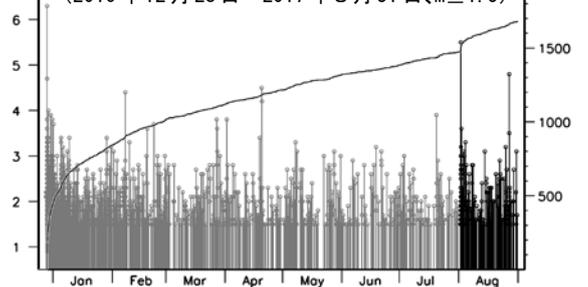
2017年8月2日02時02分に茨城県北部の深さ9kmでM5.5の地震(最大震度4、今回の地震①)が発生した。また、同月27日11時26分に茨城県北部の深さ11kmでM4.8の地震(最大震度3、今回の地震②)が発生した。これらの地震は地殻内で発生した。今回の地震①の発震機構は北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。また、今回の地震②の発震機構は北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型であった。これらの地震は、2016年12月28日のM6.3の地震(最大震度6弱)の発生以降にまとまった地震活動がみられている領域(領域a)内で発生した。領域a内では、最大震度1以上を観測する地震が8月中に13回(震度4:1回、震度3:1回、震度2:3回、震度1:8回)発生している。

1997年10月以降の活動をみると、福島県浜通りから茨城県北部にかけての地殻内(領域b)では、東北地方太平洋沖地震の発生後に地震活動が活発化し、2011年4月11日に発生したM7.0の地震では、死者4人等の被害が生じた(被害は総務省消防庁による)。その活動は、全体として低下しているものの、2011年以前に比べて活発な状況が継続している。

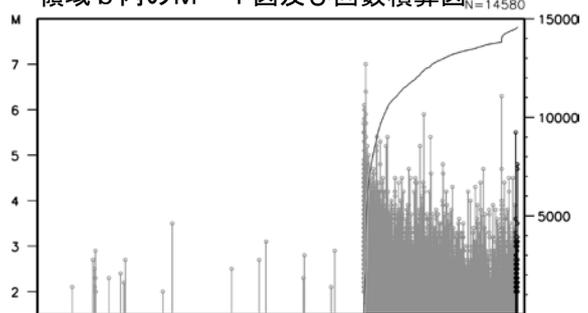
領域 a 内の M-T 図及び回数積算図 (N=6320)



(2016年12月28日～2017年8月31日、 $M \geq 1.5$)



領域 b 内の M-T 図及び回数積算図 (N=14580)

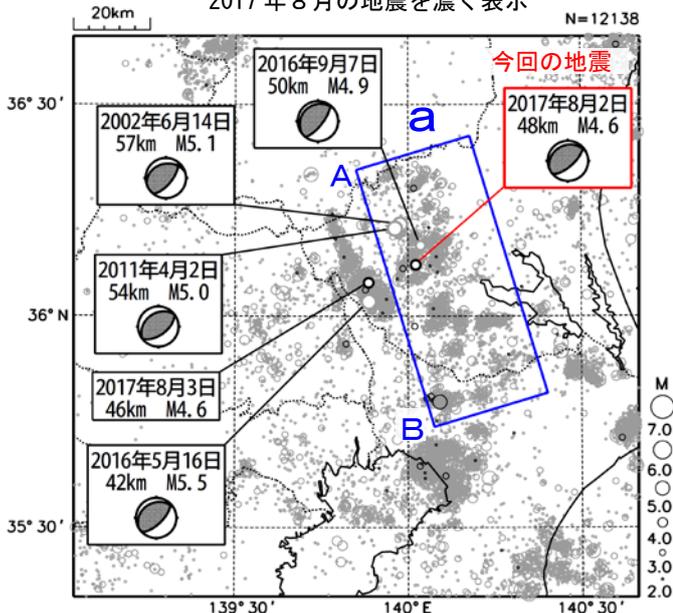


東北地方太平洋沖地震発生

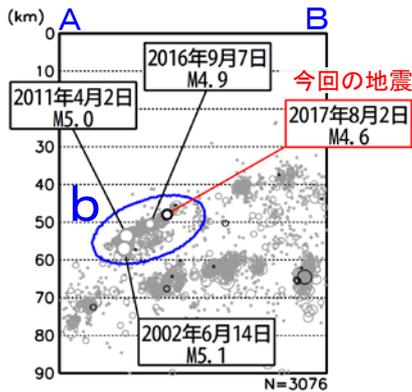
8月2日 茨城県南部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2017年8月31日、
深さ0～90km、 $M \geq 2.0$)
2017年8月の地震を濃く表示

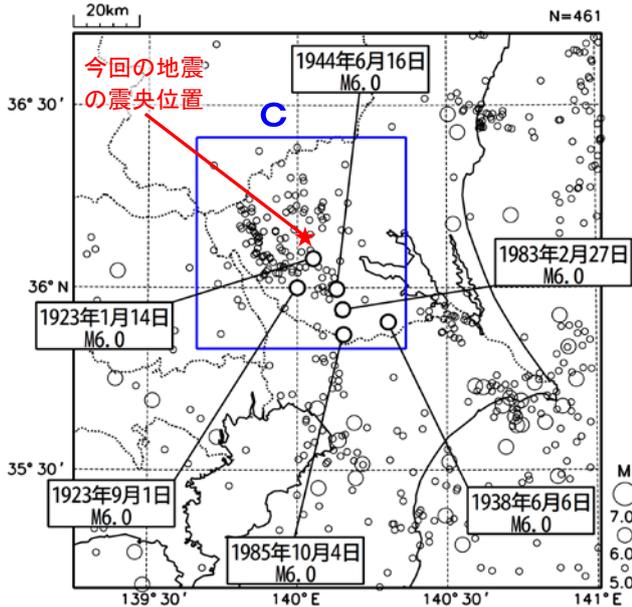


領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1923年1月1日～2017年8月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)

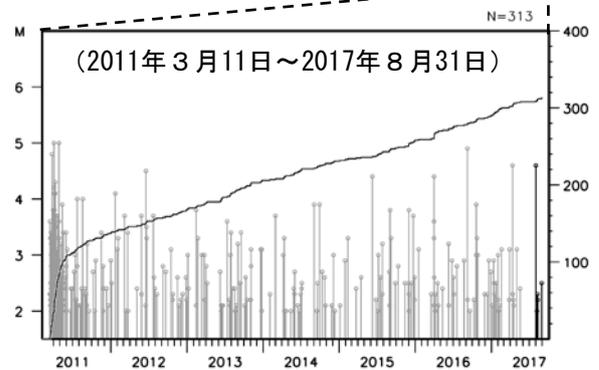
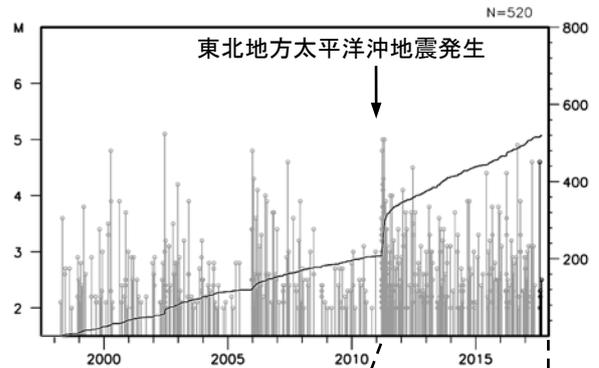


2017年8月2日07時15分に、茨城県南部の深さ48kmでM4.6の地震(最大震度4)が発生した。この地震は、発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

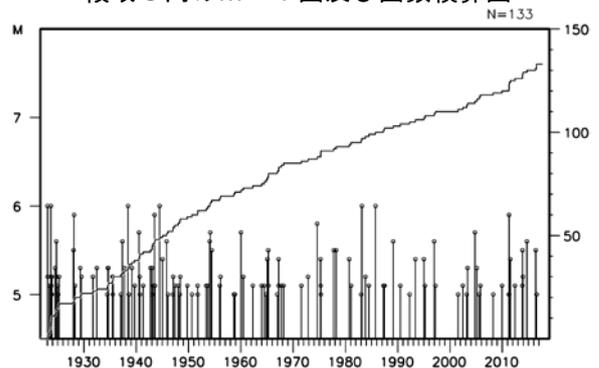
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)では、M5.0程度の地震が時々発生している。東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動がより活発になっており、2016年9月7日にはM4.9の地震(最大震度4)が発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6.0程度の地震が時々発生している。

領域b内のM-T図及び回数積算図



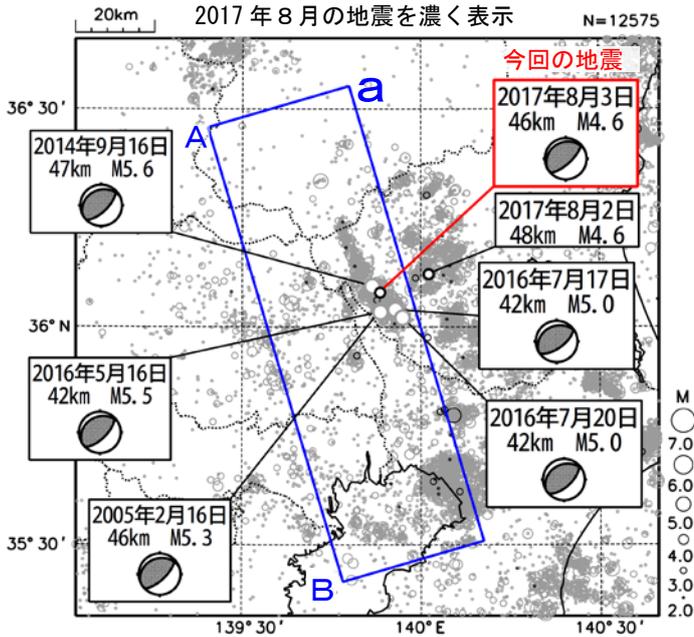
領域c内のM-T図及び回数積算図



8月3日 茨城県南部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2017年8月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)

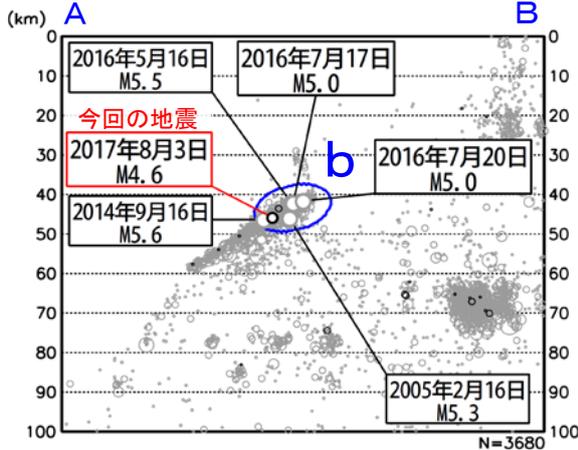


2017年8月3日13時45分に茨城県南部の深さ46kmでM4.6の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構が北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

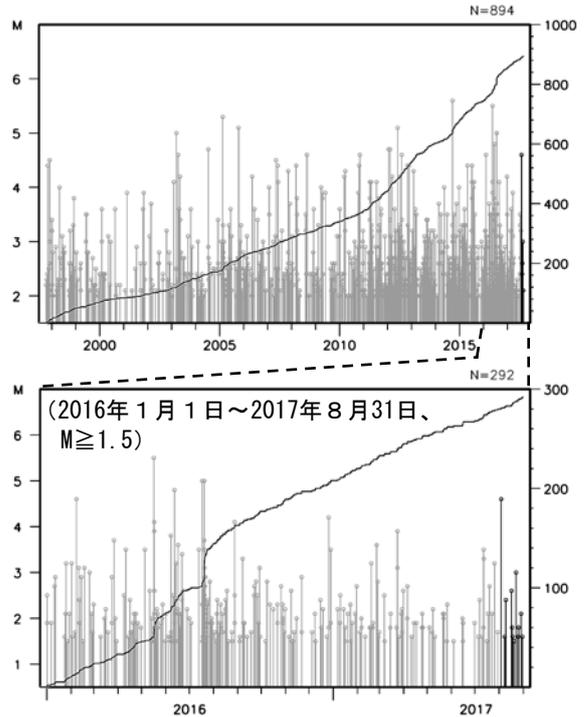
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)は、活動が活発な領域で、M5.0以上の地震がしばしば発生しており、今回の地震の発生場所の近くで、2014年9月16日にM5.6の地震(最大震度5弱)が発生している。また、最近では、2016年7月17日と20日にいずれもM5.0の地震(最大震度4)が発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6.0程度の地震が時々発生している。

領域a内の断面図(A-B投影)

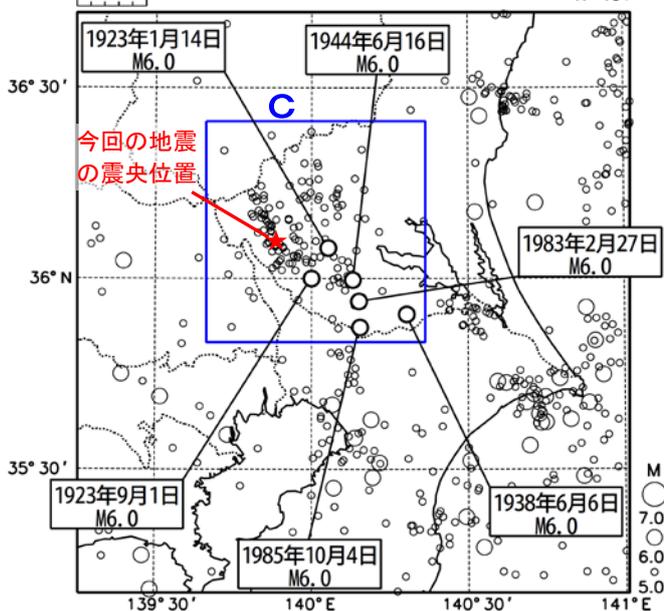


領域b内のM-T図及び回数積算図

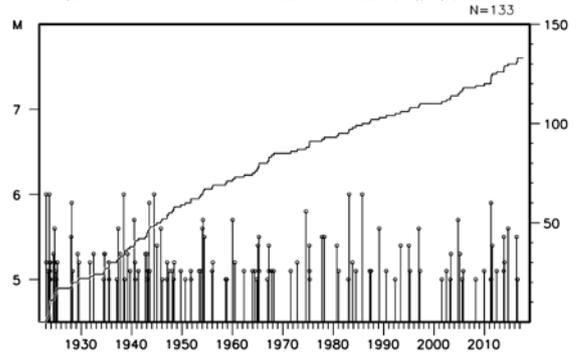


震央分布図

(1923年1月1日～2017年8月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



領域c内のM-T図及び回数積算図

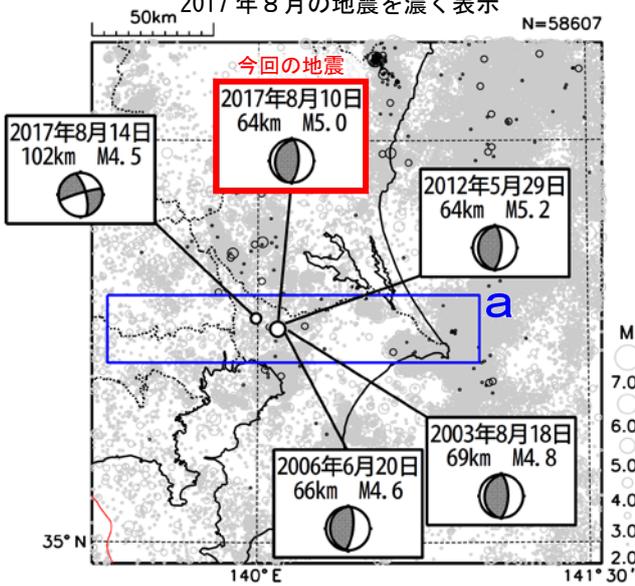


8月10日 千葉県北西部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2017年8月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)

2017年8月の地震を濃く表示

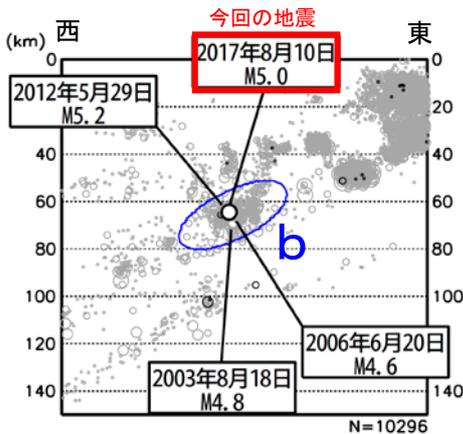


2017年8月10日09時36分に千葉県北西部の深さ64kmでM5.0の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

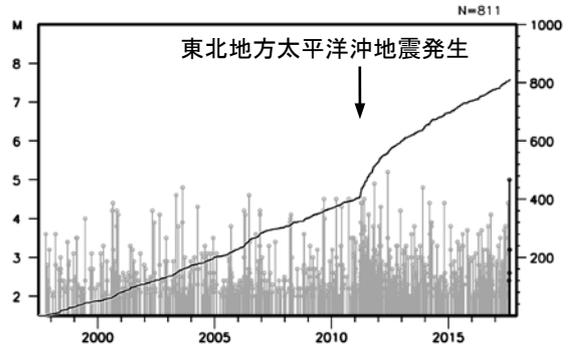
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)は、地震活動が活発な領域で、M4.0以上の地震がしばしば発生している。また、東北地方太平洋沖地震の発生以降、地震活動がより活発になっている。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6.0以上の地震が時々発生している。そのうち、1956年9月30日に発生したM6.3の地震(最大震度4)では、負傷者4人、一般建造物・配電線などに軽微な被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

領域a内の断面図(東西投影)

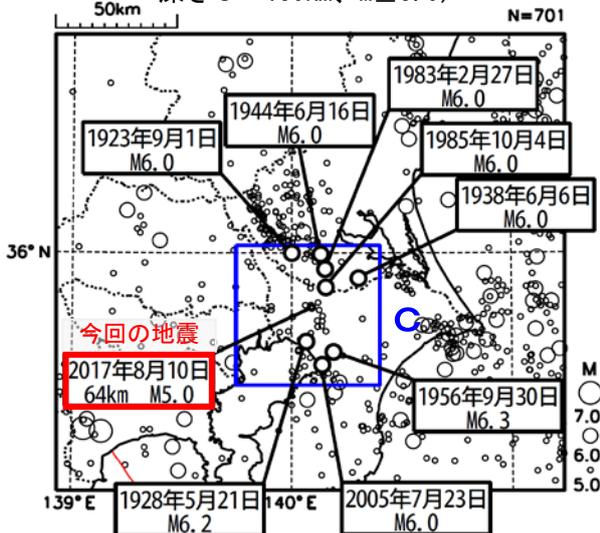


領域b内のM-T図及び回数積算図

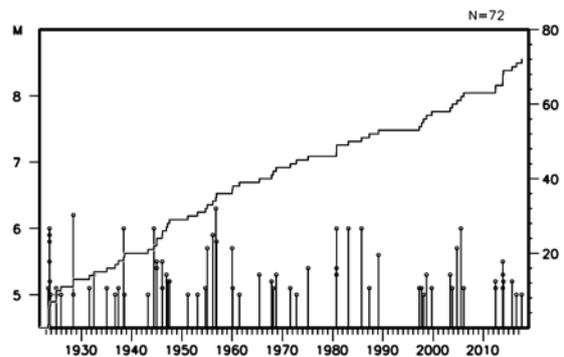


震央分布図

(1923年1月1日～2017年8月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)



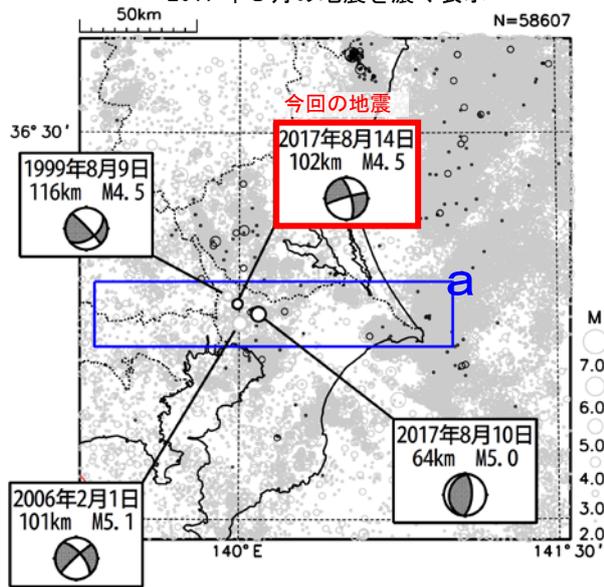
領域c内のM-T図及び回数積算図



8月14日 千葉県北西部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2017年8月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 2.0$)
2017年8月の地震を濃く表示

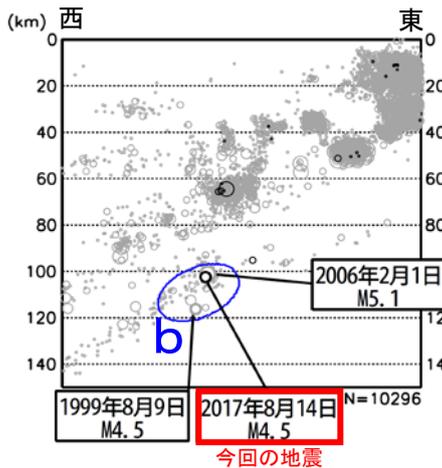


2017年8月14日18時11分に千葉県北西部の深さ102kmでM4.5の地震 (最大震度3) が発生した。この地震は、太平洋プレート内部で発生した。発震機構は西北西-東南東方向に張力軸を持つ型である。

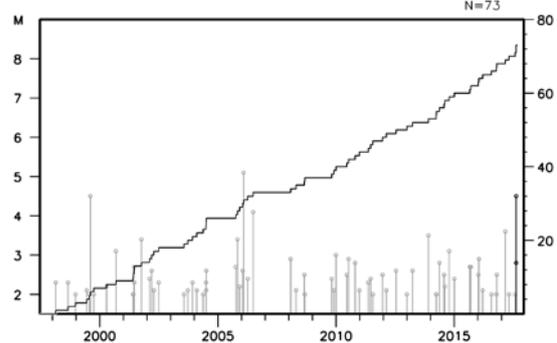
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) では、2006年2月1日にM5.1の地震 (最大震度4) が発生しているが、地震活動が比較的低調な領域である。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺 (領域c) では、M6.0以上の地震が時々発生している。そのうち、1956年9月30日に発生したM6.3の地震 (最大震度4) では、負傷者4人、一般建造物・配電線などに軽微な被害が生じた (「日本被害地震総覧」による)。

領域a内の断面図 (東西投影)

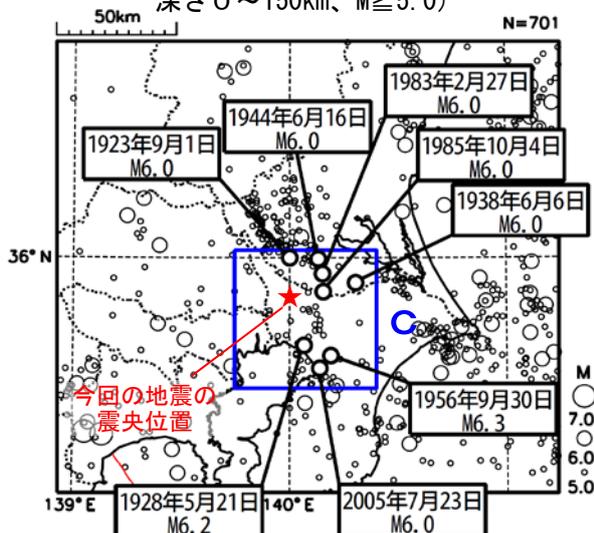


領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図

(1923年1月1日～2017年8月31日、
深さ0～150km、 $M \geq 5.0$)



領域c内のM-T図及び回数積算図

